

大凶作

一面に黄金色に色づいた稲田に一陣の秋風が吹き渡ると、稲穂が波打ち微妙な色模様の黄金の波となってサラサラと音が聞こえてくる。昔から日本人の心の奥深いところで触れる秋の風物詩の黄金色に、今年は稲穂が実らず頭をたらさない「青立ちで色づかない」「不モチ病でまっ黒」「青刈りをした」と異常な色合いで塗られた景色が目立ってきた。

冷夏と長雨、台風の襲来で心配されていた今年の稲作は九月十五日現在の作況指数は著しい不良で戦後最悪の八十との農水省の発表で事実上の凶作宣言となった。最終的には最悪の八百万ト台に落ちこむと予想されている。三年続きの大豊作でコメ余りの始まりとなった頃の千四百万トの半分、終戦直後のあの食糧難の時代でも維持された九百万トン台という数字と比べれば、消費量が減ったとはいえ、いかに大凶作かがわかる。

今年の夏は地球をとり巻く偏西風の強い

流れが例年になく大きく蛇行して、長い期間にわたって同じような位置に止まって冷夏を演出してしまった。前線は日本列島の南岸からなかなか離れず、オホーシク海高気圧が冷風扇のごとく北日本へ冷氣を送り込んだ。とりわけイネが開花する八月上旬を中心に低温が続となり終わりのない梅雨の長雨に秋雨が続き、太陽が顔を出さない日照不足に陥った。

追い討ちをかけたのが、いつもの年なら台風を日本に寄せつつけない役割の夏の太平洋高気圧が弱く次々と上陸を許してしまった。上陸数での最多記録タイの六つの台風の襲来という、トリプルパンチが列島をまんべんなく襲った。

東北地方は昭和五十一年以来、以前の二倍以上の頻度で十六年間に八回の冷害に見舞われている。地球規模の空気の流れの微妙なズレによる気象冷害のみならず減反政策などによる「構造冷害」も見え隠れしているようだ。（村松 照男）